

中・高校生時代、歴史の授業や試験前に、数字のゴロ合わせをして、歴史上の主要な出来事を暗記した人もいるでしょう。例えば、鎌倉幕府の始まりは何年だと覚えましたか？「いい国つくろう鎌倉幕府」と、「一九二二年と覚えたのではないだろうか。」

歴史の専門家の間では、鎌倉幕府の始まりには諸説があり、「一一八三年、東国武士が源頼朝の指示に従う宣言を發した年を、実質的な幕府成立とみなす」との見解もあります。奇しくも今号は一一八三年です。

さて、鎌倉幕府といえど、公家文化から武家文化へと大きくシフトする契機となつた時代でもあります。公家文化にしても武家文化にしても、階位や官位、譜代と外様等のように、位や序列があります。現代でも、一般には責任能力や技能などを加味して役職が決まります。会社では社長、部長、課長などの役職により、席次が決まります。

席次には、「上座（かみぎ・じょうざ）」と「下座（しもぎ・げざ）」があります。これは、鎌倉時代はおろか、遙か昔に中国から渡来した慣習だといわれています。わが国だけでなく、広く世界でも用いられている基本的な考え方です。

こうした慣習が長く続く背景には、人間関係をより良好にして、結びつきを強固にさせたいとの願いがあるからでしょう。ゲストをもてなすホストの「おもてなし」の心を見える化したものが定着して、形式化したものと考えられます。

上座と下座のような一定の形式に則って



実るほど 頭を垂れる稲穂かな

いると、ホストがゲストを迎える際に双方が気持ちよく、安堵して会議や会合に臨めるのです。時代を超え、洋の東西を問わず、人が人間関係を良好にしようとしてきたことの証ともいえます。こうした、人と人とのつながりを良好にしたいとの願いから始まった慣習は、「上座や下座」に限ったことではありません。

私たちが学ぶ「純粹倫理」のように、誰もが理解しやすい大自然の法則に依拠したものがあります。また、マナーや憲法や法律のように、多くの人たちが寄り合つて定められたものもあります。どちらも、より良い生活をしていくために思案されたことです。その根底には、良好な人間関係を築きたいとの思いが共に働いています。

良好な人間関係を構築するためには、「高慢心を持たないこと」が、最重要項目の一つとして挙げられます。高慢心を持たない人こそが真の友を得られるのです。歴史的観点から見ても、好ましい関係を築くことができる人と言えます。

高慢心とは、いい気になつておごり高ぶることです。傲慢不遜な態度が現われると、たとえ「上座」に招かれた人であっても、その後の人間関係は萎えてしまうでしょう。高慢心に陥らないコツは「歩の心」を持ち続けることです。特に全体を俯瞰する立場にある大將は、「歩」の視点で下の者への配慮を怠らず、物事を思慮して、一歩一歩足下を固める実践で、人の心を鷲掴みにしたいものです。